



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

2022シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団

2022

5





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第968回サントリー定期シリーズ

5月18日(水)19:00開演 サントリーホール

第146回東京オペラシティ定期シリーズ

5月20日(金)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第969回オーチャード定期演奏会

5月22日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

5/18

5/20

5/22

指揮：チョン・ミョンフン

コンサートマスター：近藤薫

フォーレ：

組曲『ペレアスとメリザンド』Op. 80(約18分)

I. 前奏曲 II. 糸を紡ぐ女 III. シシリエンヌ IV. メリザンドの死

ラヴェル：

『ダフニスとクロエ』第2組曲(約15分)

I. 夜明け II. パントマイム III. 全員の踊り

－ 休憩(約15分) －

ドビュッシー：

交響詩『海』—管弦楽のための3つの交響的素描(約25分)

I. 「海の夜明けから真昼まで」 II. 「波の戯れ」 III. 「風と海との対話」

ラヴェル：

管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』(約12分)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(5/22)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール



©ヴィヴァーチェ

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バ스티ュー音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012～)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

楽曲紹介

解説=永井玉藻

フランスの音楽史において、19世紀後半から20世紀前半にかけては、名を残す「大作曲家」に恵まれた時期である。特に、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)、クロード・ドビュッシー(1862-1918)、そしてモーリス・ラヴェル(1875-1937)の3人はひとときわ抜きん出た存在だろう。しかし、一言に「フランスを代表する作曲家たち」といっても、その人生は三者三様の「ドラマティックでダイナミック」な側面を持つ。

王道のパリ音楽院出身ではなく、また成功の証とされていた歌劇作品のヒットに恵まれなかったにも関わらず、パリ音楽院の院長に上り詰めたフォーレ。当初はピアニストを目指したが挫折して作曲に転向し、波乱に満ちた生涯を送ったドビュッシー。フォーレの指導で作曲の腕を磨き、早くから公の場で活躍するものの、アカデミックな成功はつかめず、病気にも苦しんだラヴェル。激動の世紀転換期と第一次世界大戦をも経験した彼らの代表作が並ぶ今月のプログラムでは、フランス音楽の「ドラマティックでダイナミック」な側面を堪能できるだろう。

フォーレ

組曲『ペレアスとメリザンド』Op. 80

ベルギーの詩人・劇作家のモーリス・メーテルランク(1862-1949)が1892年に発表した戯曲『ペレアスとメリザンド』は、同世代の作曲家に多くのインスピレーションを与えた。フォーレによる同名の作品もその一つで、もとは劇付随音楽として作曲されたもの。その後、まず3曲からなるオーケストラ組曲版が発表され、さらに「シシリエンヌ」と「メリザンドの歌」の2曲が加えられた。ただし、「メリザンドの歌」は声楽付きのため、今日では管弦楽のみの4曲構成で演奏される機会も多い。

当初は別の作品のための楽曲だった「シシリエンヌ」を除き、各曲は「前奏曲」の冒頭で第1ヴァイオリンが奏する主題と関連を持って展開する。「前奏曲」終結部分で角笛を思わせるように登場するホルン・ソロ、「糸を紡ぐ女」の糸車がくるくると回る様子になぞらえた弦楽器の動きなど、音による情景描写も興味深い。最後の「メリザンドの死」では葬送の付点リズムが刻まれ、上行するフルート・ソロによって曲は静かに締め括られる。

【作曲年代】1898年 【初演(劇付随音楽)】1898年6月21日、ロンドン、プリンス・オブ・ウェールズ劇場にて、作曲家自身の指揮による 【初演(4楽章の組曲)】1912年12月1日、アンドレ・メサジェ指揮/パリ音楽院管弦楽団による

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、ハープ、弦楽5部

ラヴェル 『ダフニスとクロエ』第2組曲

20世紀前半にフランスで活躍した作曲家たちにとって、ロシア人興行主のセルゲイ・ディアギレフ(1872-1929)と彼が率いた「バレエ・リュス」は、極めて重要な存在である。ラヴェルの場合、『ダフニスとクロエ』と『ラ・ヴァルス』の2曲が、バレエ・リュスおよびディアギレフとの関わりの中で生まれた作品。ただし、バレエとしてはどちらも華々しい成功作とはなっていない。『ダフニスとクロエ』の場合、その初演の直前にバレエ・リュスが上演した『牧神の午後』が話題を全てさらっていったために、影の薄い存在になってしまったのだった。

翌年、作曲家はバレエの第3場で奏される「夜明け」以降の音楽を、「交響的断片第2シリーズ」(いわゆる「第2組曲」)として出版する。初演以降も不運に見舞われ、忘れられていったバレエ版とは異なり、この「第2組曲」は、今日でもラヴェルの代表作として演奏される機会が多い。バレエの題材となった古代ギリシャの物語を想起させるように、多彩な打楽器、フルート群、ハープの活躍に聞きどころの多い作品である。

【作曲年代】1909～1912年 【初演】1912年6月8日 パリ、シャトレ劇場にて、ピエール・

モントゥーの指揮による(バレエ初演)

[楽器編成] ピッコロ、フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、アルト・フルート、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、E♭クラリネット、バス・クラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、ミリタリードラム、太太鼓、カスタネット、トライアングル、シンバル、グロッケンシュピール)、ハープ2、チェレスタ、弦楽5部

ドビュッシー

交響詩『海』―管弦楽のための3つの交響的素描

今月の定期で取り上げられる作曲家3名のうち、20世紀の音楽語法に特に強い影響を与えたのはドビュッシーだろう。西洋音楽においては、長いあいだ機能と和声に基づく明確な調性感やリズムの周期性が重視されていたが、ドビュッシーは1890年代から、こうした要素を薄めていく。結果として、それは作曲家独自の音の響きを構成し、彼の代表作とされる楽曲もこの頃から生まれていった。

『海』も、作曲家がその独自性を管弦楽で発揮した作品の一つ。弦楽器を多分割し、奏法を混在させた状態で演奏させたり、半音階の多用や機能と和声法上の役割を無視して和音を使ったりすることは、当時のアカデミックな音楽のあり方から離れた響きを生む。しかし、そのいわば異質な響きがドビュッシーの「らしさ」であり、かつ、この作品の魅力であろう。

第1楽章「海の夜明けから真昼まで」 チェロの弱音と、ヴィオラによる5音階ののち、イングリッシュ・ホルンとトランペットの主題が聞かれる。この主題を用いた主部の前半、ホルンと4分割されたチェロが導く主部の後半を経て、楽章冒頭に登場した素材が繰り返され、華々しく終わる。

第2楽章「波の戯れ」 全体を通して、グロッケンシュピールとハープ、弦楽器の繊細な動きが中心となり、狭い音域で上下行する管楽器の旋律を支える。

第3楽章「風と海との対話」 唸るような低弦楽器で始まる。これまでに登場した主題や、それらから引き出された素材が循環し、次々に曲想を変化させ、フィナーレへ突入する。

【作曲年代】1903～1905年 【初演】1905年10月15日パリにて

【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、ホルネット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール）、ハープ2、弦楽5部

ラヴェル

管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』

第一次世界大戦中の1917年、ラヴェルは最愛の母親を亡くしたショックから、極度の創作不振に陥った。彼が作曲への意欲を取り戻すまでには2年を要したが、その間には健康まで害してしまっている。復活のきっかけとなったのは、ディアギレフによる新作バレエ音楽の委嘱だった。完成した曲の2台ピアノ版を聴いたディアギレフは、作品を「バレエ曲のポートレート、バレエ曲の絵」と酷評し、舞踊作品としての上演はなされなかったが、管弦楽版としての初演が行われて以来、楽曲は今日でも広く親しまれている。

作品は連続して奏される序奏と7つのワルツ、そしてそれらを再現する8つ目のワルツで構成されている。コントラバスの静かな低音とファゴットのソロで始まる一連のワルツは、ヨハン・シュトラウスのウィンナ・ワルツを彷彿とさせつつ、各楽器を巧みに使ったソロを織り込んでいる。曲が進むにつれてワルツの喧騒は大きくなり、頂点を迎えると突如、音楽が断ち切られて終わる。

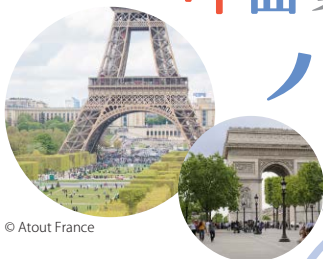
【作曲年代】1919～1920年 【初演(バレエ)】1926年、アントワープ、ロイヤル・フランダース・バレエ団による

【楽器編成】フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、クロタル、タムタム、カスタネット、グロッケンシュピール)、ハープ2、弦楽5部

ながいたまも／パリ第4大学博士課程修了、博士(音楽学)。専門は西洋音楽史(特に19～20世紀のフランス音楽、バレエ)。現在、慶應義塾大学、白百合女子大学、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学にて非常勤講師を務めている。また、Webメディア「バレエチャンネル」での連載「【マニアックすぎる】パリ・オペラ座ヒストリー」をはじめ、曲目解説やコラム寄稿などの各種執筆も行なっている。

【特別記事】

作曲家が歩いた パリの街並み

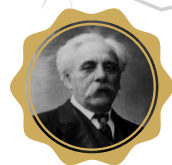


© Atout France

フランスの首都であるパリは、5月定期に登場する3人の作曲家が活躍した19世紀後半から20世紀前半の街並みを、今も多く留めています。彼らに関わりのあった場所を訪れると、今にも作曲家たちが現れそうな雰囲気が残っていることも珍しくありません。「作曲家が歩いたパリの街並み」では、5月定期の演目に寄せて、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルにゆかりの場所を写真とともにお届けします。

(写真・文=永井玉藻)

住所: Pl. de la Madeleine 75008 Paris
メトロ最寄り駅: マドレーヌ駅 (Madeleine)



ガブリエル・フォーレ
(1845-1924)

1

マドレーヌ寺院

L'Église de la Madeleine

『ペレアスとメリザンド』を作曲していた時期に、フォーレが首席オルガン奏者を務めていた教会。彼は同時期にパリ音楽院作曲科教授の仕事も担っており、非常に多忙だった。そのため、作品の最終的なオーケストレーションは、フォーレの弟子の一人であるシャルル・ケクラン(1867-1950)に任せられている。なお、マドレーヌ寺院ではフォーレの代表作の一つである『レクイエム』第1稿の初演(1888年)も行われた。

5/18

5/20

5/22

フォーレの墓



2

パッシー墓地

Cimetière de Passy

ドビュッシー、フォーレの墓



閑静な住宅街にあるパリ市の公営墓地の一つで、第14区画にドビュッシーの墓が、第15区画にフォーレの墓がある。フォーレは晩年、このパッシー墓地から歩いて15分ほどのヴィーニュ通り34番地に住んでおり、ドビュッシーもまた、墓地のあるパリ16区のボワ・ド・ブーローニュ大通り80番地に、1904年から彼の死まで居を定めていた。エッフェル塔を臨める墓地内には、他にアンドレ・メサジエ(1853-1929)やジャック・イベル(1890-1962)といった作曲家らの墓もある。



ドビュッシーの墓



クロード・ドビュッシー
(1862-1918)

住所: 2 Rue du Commandant Schloesing, 75016 Paris
メトロ最寄り駅: トロカデロ駅 (Trocadéro)

3

カルノ大通り4番地

4. Avenue Carnot

ラヴェルの家

モーリス・ラヴェル
(1875-1937)



凱旋門から伸びる12本の通りのうちの一つ、カルノ大通りの4番地には、ラヴェルが『ダフニスとクロエ』作曲時に住んでいた家がある。1908年、父ジョゼフの死後に引っ越してきたこの家について、ラヴェルは親友のゴデブスキ夫妻に、「素晴らしい眺望で、何もかも、電気さえ使える快適なアパートマン」と書き送った。現在、建物の外壁には、ラヴェルが『ダフニスとクロエ』を作曲したことを示す記念プレートが設置されている。



住所: 4 Av. Carnot, 75017 Paris
メトロ最寄り駅: シャルル・ド・ゴール=エトワール駅 (Charles de Gaulle - Étoile)

4

カルディネ通り58番地

58. rue Cardinet

ドビュッシーの家



ドビュッシーが『海』の作曲に着手したころの住まい。落ち着いた雰囲気のあるこのアパルトマンの6階に、ドビュッシーは一人目の妻だったリリー・テクシエと共に、1899年から住んでいた。彼らの部屋は146平方メートルの床面積を持ち、住民共用の中庭もあったという。建物には、オペラ『ペレアスとメリザンド』初演時（1902年）にドビュッシーが居住していたことを示す記念プレートと、ドビュッシーについて説明するパリ市の歴史掲示板が設置されている。



『海』の初版スコア表紙
(1905)



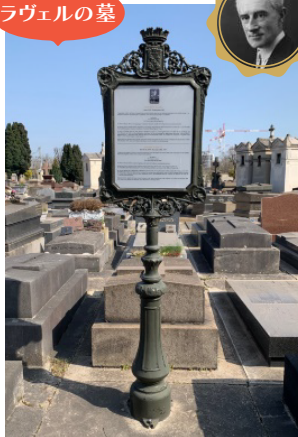
住所: 58 Rue Cardinet, 75017 Paris
メトロ最寄り駅: ワグラム駅 (Wagram)

5/18

5/20

5/22

ラヴェルの墓



住所: 106 Rue Baudin, 92300 Levallois-Perret, France
メトロ最寄り駅: ポン・ドゥ・ルヴァロワ・ベコン駅 (Pont de Levallois Bécon)

5

ルヴァロワ墓地 Cimetière de Levallois

ラヴェルの墓

パリ市の北西部に隣接する、ルヴァロワ＝ペレ市の公営墓地。ラヴェルは1904年から1908年までルヴァロワに住んだことがあり、両親の墓があること、また弟のエドゥアルが独立後に同市に家を購入したこともあって、この地には定期的に足を運んでいた。現在、ラヴェルは両親と弟とともに、第16区画の墓に眠っている。なお、ルヴァロワ墓地には、エッフェル塔の設計者であるギュスターヴ・エッフェルの墓もある。



6

ノートル＝ダム大聖堂

La Cathédrale
Notre-Dame de Paris



© Atout France



住所: 6 Parvis Notre-Dame - Pl. Jean-Paul II, 75004 Paris
メトロ最寄り駅: サン・ミシェル＝ノートルダム駅 (Saint Michel Notre-Dame)



ゴシック建築の大聖堂。2019年の大規模火災で尖塔や屋根が崩落したため、2022年3月現在、少しずつ再建作業を進めているようです。

7

フランス国立 高等演劇学校校舎 (旧パリ音楽院校舎)

Le Conservatoire national supérieur
d'Art Dramatique (Ex-bâtiment du
Conservatoire de Paris)



住所: 2 bis Rue du
Conservatoire, 75009 Paris
メトロ最寄り駅: グラン・ブル
ヴァール駅 (Grands Boulevards)



1795年から1911年まで、パリ音楽院の校舎として使用された建物。パリ・オペラ座の舞台装置アトリエや、付属バレエ学校が同居していた時期もある。フォーレとラヴェルとのあいだで交わされた手紙の中で、「フォーブル・ボワソニエルの思い出」と言及されているのが、この校舎での日々のこと。音楽院院長となったフォーレが、1911年に校舎をマドリッド通りへ移転させたのちは、現在に至るまでフランス国立高等演劇学校の校舎として使用されている。

永井玉藻(ながい・たまも)⇒プロフィールは8ページをご参照ください

The 968th Suntory Subscription Concert

Wed. May 18, 2022, 19:00 at Suntory Hall

The 146th Tokyo Opera City Subscription Concert

Fri. May 20, 2022, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 969th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. May 22, 2022, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Myung-Whun Chung, conductor

Kaoru Kondo, concertmaster

Gabriel Fauré:

Suite from Pelléas et Mélisande, Op. 80 (ca. 18 min)

I. Prélude II. Fileuse III. Sicilienne IV. La Mort de Mélisande

Maurice Ravel:

Daphnis et Chloé, Suite No. 2, Fragments symphoniques (ca. 15 min)

I. Lever du jour II. Pantomime (Les amours de Pan et Syrinx)

III. Danse générale (Bacchanale)

— intermission (ca. 15 min) —

Claude Debussy:

La Mer, Trois esquisses symphoniques pour orchestre (ca. 25 min)

I. De l'aube à midi sur la mer (From dawn to noon on the sea)

II. Jeux de vagues (Play of the waves)

III. Dialogue du vent et de la mer (Dialogue of the wind and the sea)

Maurice Ravel:

La Valse, Poème chorégraphique pour orchestre (ca. 12 min)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (May 22)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

18
May

20
May

22
May

Artist Profile



©vivace

Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

18
May20
May22
May

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

Program Notes

Text by Robert Markow

Fauré: Suite from Pelléas et Mélisande, Op. 80

Maurice Maeterlinck's finely-wrought Symbolist drama, *Pelléas et Mélisande*, set in the mists of time, was given its premiere performance in Paris on May 17, 1893. Five years later, the famous actress Mrs. Patrick Campbell commissioned Fauré to write some incidental music for a production in London in English. The complete set of incidental music consisted of nine separate pieces of varying lengths. Although Debussy's opera was in effect finished at this time, it was not performed until 1902, leaving Fauré's score as the first music inspired by Maeterlinck's drama to be heard in public. The conductor of the first performance of the four-movement Suite (Paris, December 1, 1912) was André Messager.

Fauré's delicate, pastel-colored music admirably evokes the veiled atmosphere and mood of Maeterlinck's play. Fauré captures the flavor of this world perfectly in the pensive, lyrical "Prélude." "Fileuse" introduces Act III, where we see Mélisande at her spinning wheel in a castle room. Again Fauré presents a magical evocation, this time of the gentle Mélisande in an exquisite oboe solo, which unwinds over a spinning accompaniment figure in the muted violins. The "Sicilienne" forms the Prelude to Act II, the scene where Mélisande is playing with her wedding ring (from Golaud) and accidentally drops it into the well by which she and Pelléas are playing. "La Mort de Mélisande" (The Death of Mélisande) also introduces an act – the final one where Mélisande is seen on her deathbed. The grief expressed in the elegiac funeral music is restrained, yet intensely poignant and deeply felt.

GABRIEL FAURÉ: Born in Pamiers, France May 12, 1845; died in Paris, November 4, 1924

Work composed: 1898 **World premiere (complete incidental music):** June 21, 1898, at the Prince of Wales Theatre in London conducted by the composer **World premiere (the four-movement Suite):** December 1, 1912, the Société des Concerts du Conservatoire in Paris conducted by André

18
May20
May22
May

Messenger

Instrumentation: 2 flute, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, harp, strings

Ravel: *Daphnis et Chloé*, Suite No. 2, Fragments symphoniques

For sheer opulence of orchestral color, for orgiastic rhythms and for ravishingly sensuous harmonies, Ravel's ballet score *Daphnis et Chloé* remains one of the glories of twentieth-century music. The work was commissioned by Sergei Diaghilev for the 1912 Paris season of his Ballets russes. The choreography was by Michel Fokine, the sets by Léon Bakst, and musical direction by Pierre Monteux. Nijinsky and Karsavina danced the title roles at the premiere on June 8, 1912. The revolutionary element of this "Symphonie chorégraphique" lay in its perfect fusion of music and the poetry of motion, so that the whole meaning of the story was expressed visually as well as aurally. Fokine's inspiration came from his reading of the pastoral romance *Daphnis and Chloe* by the early (second or third century) Greek writer Longus.

The Second Suite is really not a "suite" at all, but simply the final scene intact – about fifteen minutes – of the hour-long ballet. (The far-less-often-heard First Suite is a similar extended episode.) Dawn breaks over the sleeping Daphnis, estranged from his beloved Chloe, who has been abducted by pirates. Rippling woodwinds, cascading glissandos in the harps and celesta, and a slowly rising melody in the strings combine in one of the richest, most sumptuous and magical sounds ever drawn from an orchestra. Birds are singing, shepherds are piping, brooks are bubbling, dew is glistening in the fresh, pure morning air. Daphnis searches for and, aided by the god Pan, finds Chloe. Daphnis and Chloe then mime the love story of Pan and the nymph Syrinx as a tribute to Pan's help in reuniting them. The languorous flute solos portray Pan's courtship of Syrinx. Daphnis and Chloe declare their love, and everyone joins in a sensuous dance that grows to almost unbearable intensity and frenzy.

MAURICE RAVEL: Born in Ciboure, Pyrénées-Atlantiques, March 7, 1875; died in Paris, December 28, 1937

Work composed: 1911-12 **World premiere:** June 8, 1912, at the Théâtre du Châtelet in Paris conducted by Pierre Monteux (complete ballet)

Instrumentation: piccolo, 2 flutes (2nd doubling on piccolo), alto flute, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, E♭ clarinet, bass clarinet, 3 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 4 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, military drum, bass drum, castanets, triangle, cymbals, glockenspiel), 2 harps, celesta, strings

Debussy: *La Mer*, Trois esquisses symphoniques pour orchestre

An irresistible fascination with the sea has impelled almost countless composers and songwriters to evoke it in their music. Debussy's *La Mer* is surely the best known work of this title, and few works so richly and evocatively portray the sea as Debussy has done. Oddly enough, however, this composition was not written anywhere near the sea, but rather in various inland locations, including the Burgundian mountains and Paris. In *La Mer*, Debussy portrays the sea in its varied moods but does not attempt explicit images in sound; rather, through sonorities he seeks to stir the memories, emotions and imagination, permitting each listener a personal perception of the sea. The first performance took place on October 15, 1905 at the Concerts Lamoureux in Paris, Camille Chevillard conducting. Hokusai's famous woodblock print, *The Great Wave off Kanagawa*, served as the cover for the first edition of the score.

The first part, "From dawn to noon on the sea," begins very quietly with slow, mysterious murmuring. Through sonority itself, Debussy evokes the sensation of peering into the very depths of the dark, mysterious sea. As the sea awakens, the orchestral colors brighten and motion quickens. Eventually a noble, chorale-like passage appears and slowly grows to paint a majestic picture of the sea under the blazing noonday sun.

"Play of the waves" is full of sparkle and animation. The range and delicacy of Debussy's scoring fascinate at every turn; even the "ping" of the

18
May20
May22
May

triangle has evocative power. Biographer Oscar Thompson describes this music as “a world of sheer fantasy, of strange visions and eerie voices, a mirage of sight and equally a mirage of sound.”

“Dialogue of the wind and the sea” opens restless, gray and stormy, the music suggesting the mighty surging and swelling of the water. Melodic fragments from the first movement return. The activity subsides, and out of the mists comes a haunting, distant call, like that of the sirens, high in the woodwinds. The music again gathers energy. Finally we hear once more the grandiose chorale motif from the first seascape, and *La Mer* concludes in a frenzy of whipping wind and dashing waves.

CLAUDE DEBUSSY: Born in Saint Germain-en-Laye, August 22, 1862; died in Paris, March 25, 1918

Work composed: 1903-05 **World premiere:** October 15, 1905, in Paris

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 3 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 2 cornets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, glockenspiel), 2 harps, strings

Ravel: La Valse, Poème choréographique pour orchestre

The waltz is as much a part of Viennese life as whipped cream, Sachertorte, and operetta. Small wonder, then, that Ravel’s *poème choréographique* was initially called *Wien* (Vienna), which he conceived as “a sort of apotheosis of the Viennese waltz, with which is mingled in my mind the fantastic whirl of destiny.” It was written as a commission from the famous impresario Sergei Diaghilev for his Ballets russes. Ravel first thought of writing a work based on Viennese waltzes, a kind of homage to Johann Strauss, in 1906, but not until 1920 did he actually get around to doing so. In the meantime, a World War had passed, and the glitter and opulence of Old Vienna had faded. Hence, Ravel’s homage to the waltz became something of a bittersweet memory of shattered dreams, often steeped in threatening, forbidding and even frightening images. The first staged performance (following those for two pianos and for orchestra)

was given in Antwerp by the Royal Flemish Opera Ballet in 1926.

Ravel furnished the following description of the music's opening pages: "Drifting clouds allow hazy glimpses of waltzing couples. The clouds gradually disperse and we see an immense ballroom filled with a whirling crowd. The blaze of chandeliers comes to full splendor. An Imperial Court ball about 1855." A waltz theme struggles to life against a surreal background. The disorienting effect is dispelled as several waltz tunes are played clearly and with confidence. The music reels on, eventually becoming frenzied, swirling out of control, approaching a "fatal sort of dervishes' dance," in Ravel's words. Grinding dissonances pile up, grotesque masses of sound collide, and wildly erratic rhythms rip apart the world of gay Vienna as it crumbles into dust and ruin.

Work composed: 1919-20 World premiere (ballet): 1926, in Antwerp by the Royal Flemish Opera Ballet

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, crotales [antique cymbals], tam-tam, castanets, glockenspiel), 2 harps, strings

25
Sep27
Sep29
Sep

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2022 Season Subscription Concerts Lineup

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience!

June

Wed. June 8, 19:00
at Suntory Hall

Thu. June 9, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. June 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Mikhail Pletnev,
Special Guest Conductor

Shchedrin: "Carmen" Suite
(Shchedrin's 90th anniversary)
Tchaikovsky: Experts from the ballet
"Swan Lake" (Pletnev special edition)

Single tickets available

July

Thu. July 7, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. July 10, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Tue. July 12, 19:00
at Suntory Hall

conductor: Daichi Deguchi
violin: Mayu Kishima

Khachaturian:
Experts from the ballet "Gayane"
Khachaturian: Violin Concerto
Khachaturian:
Symphony No. 2 "The Bell"

Single tickets available

Price list

Seat Type	SS	S	A	B	C
Single tickets	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
"TPO Friends(10% discount)"	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

September

Thu. Sep 15, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Sep 16, 19:00
at Suntory Hall

Mon./Holiday Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Andrea Battistoni,
Chief Conductor

Liszt/Battistoni: *Années de pèlerinage*,
Deuxième année - Italie, S. 161: No. 7,
Après une lecture du Dante
(After a Reading of Dante from Years of
Pilgrimage "Second Year: Italy" S. 161 No. 7)
Mahler: *Symphony No. 5*

Single tickets available

October

Thu. Oct 20, 19:00
at Suntory Hall

Fri. Oct 21, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. Oct 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Myung-Whun Chung,
Honorary Music Director

Sir John Falstaff: Sebastian Catana

Ford: Shingo Sudo

Fenton: Yusuke Kobori

Dr. Cajus: Tetsutaro Shimizu

Bardolfo: Takashi Otsuki

Pistola: Hirotaka Kato

Mrs. Alice Ford: Ryoko Sunakawa

Nannetta: Rie Miyake

Mrs. Quickly: Ikuko Nakajima

Mrs. Meg Page: Yumiko Kono

Chorus:

New National Theatre Chorus

Verdi:
Opera "Falstaff" in concert style
with Japanese supertitles

Libretto by Arrigo Boito
from William Shakespeare's
"The Merry Wives of Windsor"

Single tickets available

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)



Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより — 2022年シーズン今後の定期演奏会

6月の定期演奏会

第970回サントリー定期シリーズ

6月8日(水) 19:00 サントリーホール

第147回東京オペラシティ定期シリーズ

6月9日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第971回オーチャード定期演奏会

6月12日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ(東京フィル特別客演指揮者)

シCHEDリン／

カルメン組曲〈シCHEDリン生誕90年〉

チャイコフスキー／

バレエ音楽『白鳥の湖』より

(プレトニョフによる特別編集)



6月定期特設ページは
こちらから



7月の定期演奏会

第148回東京オペラシティ定期シリーズ

7月7日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第972回オーチャード定期演奏会

7月10日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第973回サントリー定期シリーズ

7月12日(火) 19:00 サントリーホール

指揮：出口大地

(2021年ハチャトゥリアン国際コンクール第1位、
クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位入賞)

ヴァイオリン：木嶋真優*

ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイーヌ』より

ハチャトゥリアン／ヴァイオリン協奏曲*

ハチャトゥリアン／交響曲第2番『鐘』



指揮者・出口大地の動
画メッセージはこちら
から (Youtube)



【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (平日10時～18時／土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

ご寄附の御礼

株式会社 三菱UFJフィナンシャル・グループ

上記企業様より、新型コロナウイルス感染症対策として、公益社団法人日本オーケストラ連盟を通じ、ご寄附をいただきました。ご支援に心より御礼申し上げます。(敬称略)

【提携都市公演】響きの森クラシック in 東京オペラシティ〈第3回〉

事業提携を結ぶ文京シビックホール休館中に東京フィルメン
バーがおおくりする「響きの森クラシック・シリーズ」室内楽編〈第
3回〉は、東京オペラシティ リサイタルホールにて。選りすぐりのメ
ンバーによる弦楽アンサンブルをお届けします。

日時 7月26日(火)19時開演(開場18時15分)

会場 東京オペラシティ リサイタルホール

出演 東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽ア
ンサンブル〔第1ヴァイオリン: 依田真宣、小池彩織／
第2ヴァイオリン: 藤村政芳、高瀬真由子／ヴィオラ: 須
田祥子、加藤大輔／チェロ: 金木博幸／コントラバス:
黒木岩寿〕

曲目 シューベルト(黒木岩寿編曲)／

弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」D.810(弦楽合奏版)

ハルヴェルセン／ヘンデルの主題によるパッサカリア

(フランク・プロト編曲によるヴァイオリン・コントラバス版)ほか

料金 1,500円(全席指定・税込)

残席僅少につき販売状況はお問い合わせください。

問合せ シビックチケット 03-5803-1111(10時～19時)

<https://www.b-academy.jp/hall/>



依田真宣

©大窪道治



黒木岩寿

©井村重人

【提携都市公演】長岡特別演奏会

マエストロ バッティストーニが長岡に帰ってきます！マエストロが以前から取り組んでいる編曲作品から、作曲家リストの壮大なピアノ作品『巡礼の年』を自らの手でオーケストラ作品にアレンジした「ダンテを読んで」、そしてオーケストラ音楽の傑作のひとつマーラー「交響曲第5番」。東京フィル初登場から10年、さらなる進化を聴かせます。



©上野隆文



昨年の様子

日時 9月18日(日)14:00開演

会場 長岡市立劇場 大ホール

出演 指揮: アンドレア・バッティストーニ(東京フィル首席指揮者)

曲目 リスト(バッティストーニ編)／『巡礼の年』第2年「イタリア」より ダンテを読んで
マーラー／交響曲第5番

料金 S席¥6,000 A席¥4,000(全席指定)

発売日 6月10日(金)9:00～

問合せ (公財)長岡市芸術文化振興財団 0258-29-7715

【掲載情報】

小学館『小学一年生』5・6月合併号に東京フィルメンバーが登場



「ピッカピカの一年生」で有名な小学館の学習雑誌『小学一年生』5・6月合併号「オーケストラのひみつたんけん」に東京フィルメンバーが登場しています。只今好評発売中。この春の新年生も、そして大きなお友達も、ぜひお近くの書店やウェブサイト等でご購入ください。

価格 1690円(税込) 出版社 小学館

『小学一年生』ウェブサイト <https://sho.jp/sho1/>

<撮影/松原敬子 モデル/神尾百音 提供/小学館「小学一年生」>



2022シーズン 今後の定期演奏会

東京フィルの2022シーズンが1月に開幕し、3月には創立111周年を迎えました。引き続き皆様にかげがえのないひと時をお届けいたします。現在、各公演とも1回券好評発売中です。(残席状況はお問合せ下さい)

皆様のご来場をお待ちしております。

5月

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)

第968回 5月18日(水)19:00
サントリーホール
第146回 5月20日(金)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第969回 5月22日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』
ラヴェル／『ダフニスとクロエ』第2組曲
ドビュッシー／交響詩『海』
(管弦楽のための3つの交響的素描)
ラヴェル／
管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』



◀5月定期の聴きどころはこちらから!

1回券発売中

6月

指揮：ミハイル・プレトニョフ
(東京フィル特別客演指揮者)

第970回 6月8日(水)19:00
サントリーホール
第147回 6月9日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第971回 6月12日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

シCHEDリン／カルメン組曲
〈シCHEDリン生誕90年〉
チャイコフスキー／『白鳥の湖』より
(プレトニョフによる特別編集)



◀6月定期の聴きどころはこちらから!

1回券発売中

チケット料金(税込)

1回券	SS席	S席	A席	B席	C席
定価	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
東京フィルフレンズ (※定価の10%OFF)	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

7
月

指揮：出口大地

(2021年ハチャトゥリアン国際コンクール第1位、
クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位入賞)
ヴァイオリン：木嶋真優*第148回 7月7日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第972回 7月10日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第973回 7月12日(火)19:00
サントリーホールハチャトゥリアン／
バレエ音楽『ガイヌ』より
ハチャトゥリアン／ヴァイオリン協奏曲*
ハチャトゥリアン／交響曲第2番『鐘』

1回券発売中

9
月指揮：アンドレア・パッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)第149回 9月15日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第974回 9月16日(金)19:00
サントリーホール
第975回 9月19日(月・祝)15:00
Bunkamuraオーチャードホールリスト(パッティストーニ編)／
『巡礼の年』第2年「イタリア」より
ダンテを読んで
マーラー／交響曲第5番

1回券発売中

10
月指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)ファルスタッフ：セバスティアン・カターナ
フォード：須藤慎吾 フェントン：小堀勇介
カイウス：清水徹太郎 バルドルフォ：大槻孝志
ピストーラ：加藤宏隆 アリーチェ：砂川涼子
クイックリー：中島郁子 ナンネッタ：三宅理恵
メグ：向野由美子 新国立劇場合唱団第976回 10月20日(木)19:00
サントリーホール
第150回 10月21日(金)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第977回 10月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

オペラ演奏会形式

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』
全3幕 字幕付原語(イタリア語)上演
原作：ウィリアム・シェイクスピア
『ウィンザーの陽気な女房たち』
台本：アッリーゴ・ボーイト

1回券発売中

問合せ 東京フィルチケットサービス

発売日などの詳細は

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝休／
発売日の土日祝は10時～16時)
URL www.tpo.or.jp/(24時間受付・座席選択可)

2022シーズン 午後のコンサート。 いよいよ開幕!

2022シーズンの「午後のコンサート」、開幕いたしました。ゆったりとした午後のひとときを、オーケストラの名曲と幅広い世代の音楽家のお話で愉しむ「午後のコンサート」。現在、6～7月公演の1回券発売中です。ひきつづきお楽しみください。



イラスト:ハラダチエ

料金表	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます。

“大人の渋谷”、Bunkamuraで愉しむ 渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール
開演14:00 (開場13:15)

7月27日(水) 第14回

指揮とお話: **三ツ橋敬子**
バンドネオン: 小松亮太



夏を踊る

1回券発売中

ガーデ/ジェラシー*
ピアノ/アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
ビゼー/歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ/バレエ音楽『三角帽子』
第2組曲より「粉屋の踊り」〜終曲

ほか

9月2日(金) 第15回

指揮とお話: **小林研一郎**
ヴァイオリン: 荒井里桜



コパケンの名曲アラカルト

1回券6月発売

グリーンカ/歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク/スラブ舞曲第10番
スメタナ/連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

11月24日(木) 第16回

指揮とお話: **大井剛史**
ソプラノ: 森麻季



クリスタル・クラシック

1回券8月発売

ドヴォルザーク/序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまいし歌*
山田耕柁/赤とんぼ* この道*
ブッチャーニ/歌劇『パゴエーム』より
「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク/交響曲第8番

ほか

photo 三ツ橋敬子©Earl Ross/小松亮太©Yusuke Takamura/小林研一郎©山本敬子/荒井里桜©Toyohiro Matsushima/大井剛史©K. Miura/森麻季©Yuji Hori

**ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美”
平日の午後のコンサート**東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

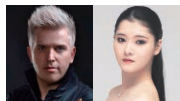
6月23日(木) 第26回

指揮とお話：
チョン・ミン
(アソシエイト・コンダクター)**マエストロの旅**

1回券発売中

ベルリオーズ／ローマの謝肉祭
ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲
ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』

8月5日(金) 第27回

指揮とお話：
ダン・エッティンガー
ヴァイオリン：服部百音

10月31日(月) 第28回

指揮とお話：**円光寺雅彦**
ピアノ：清塚信也**千夜一夜物語**

1回券6月発売

ワーグナー／楽劇『ニュルンベルクのマイスター
ジンガー』より第1幕への前奏曲
ワックスマン／カルメン・ファンタジー*
リムスキー＝コルサコフ／交響組曲『シェエラザード』**オーケストラ・クライマックス
～ピアノ協奏曲編～**

1回券8月発売

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*
ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』ほか**愛され続けて23年目。午後コンの“元祖”
休日の午後のコンサート**東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

7月24日(日) 第93回

指揮とお話：**三ツ橋敬子**
バンドネオン：小松亮太**夏を踊る**

1回券発売中

ガーデ／ジェラシー*
ピアソラ／アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
ビゼー／歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ／バレエ音楽『三角帽子』
第2組曲より『粉屋の踊り』～終曲

ほか

9月4日(日) 第94回

指揮とお話：**小林研一郎**
ヴァイオリン：荒井里桜**コパケンの名曲アラカルト**

1回券6月発売

グリムカ／歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク／スラブ舞曲第10番
スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

11月27日(日) 第95回

指揮とお話：**大井剛史**
ソプラノ：森麻季**クリスタル・クラシック**

1回券8月発売

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまいし歌*
山田耕柝／赤とんぼ* この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番

ほか

photo: 尾高忠明・小林研一郎©上野隆文・栗田博文©友澤綾乃・チョンミン©Silvia Lelli / ミツ橋敬子©Earl Ross / 小松亮太©Yusuke Takamura / ダン・エッティンガー©Juergen Altmann / 服部百音©Yuji Inagaki / 荒井里桜©Toyohiro Matsushima / 円光寺雅彦・大井剛史©K. Miura / 清塚信也©Kunito Watanabe / 森麻季©Yuji Hori

お申込み・お問合せは
東京フィル
チケットサービスまで03-5353-9522 (平日10時～18時 / 土日祝休・チケット発売日の土曜日は10時～16時の営業)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

Photo Reports 2022年3月の演奏会より

3月の定期演奏会は、特別客演指揮者ミハイル・ブレトニョフが2年5か月ぶりに来日を果たし、スメタナの『わが祖国』全曲をお届けしました。2020年3月の定期演奏会で予定されていた本公演、コロナ禍で3度の延期を経て、念願の実現となりました。

写真=上野隆文(3/10)／寺司正彦(3/13)

3月定期演奏会(3/10、11、13)

指揮：ミハイル・ブレトニョフ
(東京フィル 特別客演指揮者)
コンサートマスター：依田真宣

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』(全曲)

- 第1曲 ヴィシェフラド(高い城)
- 第2曲 モルダウ
- 第3曲 シャールカ
- 第4曲 ボヘミアの森と草原より
- 第5曲 ターボル
- 第6曲 ブラニーク

【オーケストラ・アンコール】

J.S.バッハ(L.ストコフスキー編)／
管弦楽組曲第3番より「エアー」(G線上のアリア)



2019年10月定期演奏会ぶりの共演が叶い、魔法のようなタクトを披露しました



3度目の延期が決まった2021年春、マエストロは「再び日本を訪れ、この作品を東京フィルの皆さんと演奏できる日が早く来る事を心から願っております」とメッセージを寄せました。リハーサルでは笑みがこぼれる場面も



マエストロを挟んで第1ヴァイオリンと第2ヴァイオリンが向かい合う対向配置で演奏。コントラバスは舞台向かって左手、打楽器セクションは右手に、ホルンは倍管で8人が最後列に一列で並びました



『わが祖国』の全曲演奏に取り組むのは今回が初めてというマエストロ。全曲を「ひとつの絵巻物として演奏したい」と語り、曲間はアタッカ(切れ目なく演奏すること)で繋ぎました



アンコールはマエストロの選曲で、リストコフスキー編曲による「G線上のアリア」を演奏。東京オペラシティ公演は、東日本大震災から11年目を迎えた日でもありました



最終日オーチャード定期演奏会でのカーテンコールにて。マエストロとの待望の『わが祖国』全曲演奏は、冬の寒さも残るなか、3公演とも多くのお客様にお越しいただきました。ご来場誠にありがとうございました。次回の登場は6月定期演奏会です。どうぞお楽しみに

大町陽一郎氏を偲んで

寄稿=丹羽正明（音楽評論家）

2022年2月、指揮者の大町陽一郎氏が老衰のため90歳で逝去されました。1931年生まれ、東京藝術大学作曲科を卒業の後ウィーンで研鑽を積み、帰国後に東京フィル第5代常任指揮者（1961-64/1967-74）、専属指揮者（1964-67）、音楽顧問（1974-99）、専任指揮者（1999-）、名誉指揮者（2015-）を歴任されました。大町氏と同世代で、その活躍を長くご覧になってきた音楽評論家・丹羽正明氏のご寄稿でその活躍をふりかえり、故人を偲びます。

「東京フィルの大町」

大町陽一郎さんの訃報に接し、同世代の一人として哀惜の念に堪えません。指揮者には、そのキャリア形成の具合によって、特定のオーケストラと結びつけてイメージされる人と、フリーの立場が強調されるタイプとがありますが、大町さんは正に東京フィルの大町であったと言えます。弱冠29歳の大町さんを常任指揮者に抜擢した東京フィルは、我が国で最も長い歴史を誇るオーケストラで、今年創立111周年を迎えるとのことですが、当時の東京フィルは、今改めて思い返して見ても、新たな飛躍の時を迎えていたのです。1961年に東京文化会館が竣工して、定期演奏会の会場が、従来の古ぼけた日比谷公会堂から、音響効果抜群の



大町氏の東京フィル常任指揮者就任披露公演のプログラム。たくさんの祝辞が並びました（1961年4月）

新設ホールに移り、会員数も随分増えました。指揮者陣は、前任の常任アルベルト・レオーネ、その前の専任ニコラ・ルッチとイタリア系が続いた後を受けて、シンフォニーの本場ウィーンで学んだ若手俊英を据えて、満を持するといった構えでした。実際にその後は、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、R. シュトラウスなどのドイツ古典・ロマン派の作品がプログラムに目白押しに並ぶようになったのです。

ウィーンでの研鑽、「帝王カラヤン」との交流

大町さんは1954年に東京藝大を卒業したその夏にウィーンに留学し、ウィーン国立音楽院の指揮科でスワロフスキーに就きましたが、更にバームとカラヤンにも

教えを受けたのです。殊に世界の帝王と称されたカラヤンとの関係を深め、1959年10月にはカラヤン=ウィーン・フィルの来日に同行して大町さんは帰国したのです。確かに一時期に大町さんはこの巨匠に心酔していて、顎をやや上に向け、伸ばした両腕をゆっくり左右に振り拡げる仕草などには、カラヤン先生の面影を彷彿とさせるものがありました。当時、口さがない連中からは“ヘルベルト・フォン・大町”とのニックネームを奉られる向きもあったようです。

1930年代生まれ、多士済々の時代／ オペラ指揮者・大町陽一郎

1960年頃の日本では、1930年代生まれの新進指揮者が相次いで登場して来ました。外山雄三、大町陽一郎、岩城宏之、小澤征爾、若杉弘などです。この中で小澤が桐朋学園の斎藤秀雄門下として早くから指揮者を目指して育てられたのに比べ、東京藝大系の人達は、外山と大町が作曲科卒、岩城が打楽器科中退という経歴なのが目を引きますが、以前はむしろそれが普通で、東響の上田仁（元ファゴット奏者）、N響の尾高尚忠（作曲）、山田一雄（ピアノ）、森正（フルート）などの言わば転向組の指揮者たちが大活躍していたのです。



大町氏のベルリン・フィル客演について報じる新聞記事(1960年3月28日東京新聞)

日本の音楽界が大町さんの類稀なる能力を十二分に発揮して貰えなかった分野がオペラでした。大町さんは、ドルトムント市立歌劇場のカペルマイスターのポストを得て、日常的なオペラの音楽づくりの現場責任者を務めた、生え抜きのオペラの



ウィーン国立歌劇場でのカーテンコール。中央に大町氏

専門家でもあったので、日本のオペラ界でもっと存分に腕を揮って欲しかったと思います。国立オペラ劇場が出来た今ならばそれが可能だったのにと、悔やまれるのです。

謹んで大町さんのご冥福をお祈り申し上げます。

にわ・まさあき／音楽評論家。1932年生まれ。東京大学在学中から「音楽芸術」誌に執筆を開始、長年にわたって読賣新聞に演奏会批評を執筆した。これまでに、第二国立劇場設立準備協議会専門委員、各音楽コンクール審査員・運営委員、サントリー音楽賞及びジロー・オペラ賞各音楽賞の選考委員等を歴任。東京音楽大学教授を経て、東邦音楽大学教授。東京出身。編著に「音楽小辞典」(芸術現代社)など



マエストロ 大町陽一郎を偲んで

In memory of Maestro OMACHI Yoichiro

大町陽一郎氏 略歴

1931年、東京に生まれる。1954年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。在学中、渡邊暁雄、クルト・ヴェースに指揮法を学ぶ。同年ウィーン国立アカデミー留学、スワロフスキーのもとで指揮法を学ぶ。1956年指揮科を卒業後は、カール・ベーム、ヘルベルト・フォン・カラヤン、フランコ・フェレーラに師事し、60年に日本フィルを指揮して帰国演奏会を開き成功をおさめた。1961年より10年間、東京フィルの常任指揮者としてその黄金時代を築く。オペラ指揮者としても国内では二期会や藤原歌劇団などに客演、1968年からはドルトムント市立歌劇団専属指揮者としてオペラ、バレエ、オペレッタの指揮を多数行った。シンフォニーではベルリン・フィル、ウィーン交響楽団等、オペラはベルリン国立歌劇場やプラハ・スメタナ国立歌劇場に客演するなど、シンフォニーとオペラの両輪で活躍した。1980年2月、日本人として初めてウィーン国立歌劇場に登場。『バタフライ(蝶々夫人)』を指揮して絶賛を博す。同年8月にはクリーヴランド管弦楽団を指揮して米国デビュー、1982年より84年にはウィーン国立歌劇場の専属指揮者として、オペラ、バレエ公演を指揮した。1988年より2年間ケルン日本文化会館館長として日独文化交流に尽くした功績により1992年春ドイツ連邦共和国功労勲章「大功労十字」を授与。1996年、日本人初のウィーン市名誉ゴールド・メダルを受賞。著書には、講談社刊『クラシック音楽へのすすめ』がある。ドイツ・ヨハン・シュトラウス協会名誉会員。東京藝術大学名誉教授。2022年2月18日逝去。

Photo Memories



1960年から2011年まで50年余、東京フィルの指揮台に登場されました



結婚のニュースが新聞に写真付きで報じられるなど、時代のアイコン的存在でもありました(1960年10月11日東京新聞)



来日中のカール・ベームが東京フィルとのリハーサルを見学に(1963年)



2008年、ご自宅でのインタビューにて
◎三好英輔



2011年10月の「午後のコンサート」リハーサルより
◎三好英輔



2011年10月の「午後のコンサート」より。お話コーナーも好評でした
◎三好英輔



貴重な過去のインタビューの再録を特別サイトでご覧いただけます。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

オーケストラ二都物語： ロンドンと東京 ～ふたつのフィルハーモニー

防衛大学校 国際関係学科教授
等松春夫



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第9回は、国際関係学を専門にされ、英国音楽についてもさまざまな執筆活動をされている等松春夫氏。少年時代からオペラ、交響楽の双方で東京フィルの演奏に親しんできてくださったそうです。

縁あって1990年代、20代後半から30代前半にかけて7年間英国で学んだ。その間、安価な学生券を買える特権を駆使して600以上の演奏会、オペラ、バレエ、演劇に足を運んだ。中でもテムズ河畔のロイヤル・フェスティヴァル・ホール(RFH)でしばしば聴いたのがロンドン・フィルハーモニック管弦楽団(LPO)である。1932年に英国楽壇の重鎮サー・トマス・ビーチャムによって設立され、たちまち英京の音楽的な顔となった。1936年には早くもドイツ公演まで行っている。第二次世界大戦後の苦難の時代を巨匠サー・エイドリアン・ボルトと共に乗りきり、その後ハイティンク、ショルティ、テンシュテット、ヴェルザー＝メストらの名指揮者たちに鍛えられた。LPOがロンドンの他の同僚楽団たちと異なるのはオペラにも強い点である。6月から8月はサセックス州の鄙びた町ルイスに移動し、この地で開かれるグラインドボーン・オペラのピットに入る。

このオペラ祭は1934年、富豪ジョン・クリスティによって始められた。本業はパブリック・スクールの教師という物堅い人物であるが、熱烈なオペラ・ファンであった。ソプラノ歌手オードリー・ミルドメイと結婚してオペラ熱に拍車がかかり、ついには広大



グラインドボーン音楽祭
(2019年7月)クリスティ
邸とオペラハウスの前で



東京フィル ロンドン公演 (1994年
10月)のCDジャケット

な自邸の庭に歌劇場を建ててしまった。所詮金持ちの道楽ですぐにつぶれるであろうとの大方の予想に反し、紆余曲折を経て現在は英国の音楽生活に不可欠のアセットになっている。1960年代以来この歌劇場の音楽面を担ってきたのがLPOである。

1993年の夏は建て替えのためオペラ祭が開けず、その代わりRFHで3演目9回の演奏会形式上演を行った。『フィデリオ』『ペアトリスとベネディクト』『メリー・ウィドー』である。英国の貴顕と紳士淑女が集うグラインドボーン・オペラは東洋から来た一書生には敷居が高かったが、なじみあるRFHには自然に足が向いた。3公演とも堪能したことはいうまでもない。

考えてみれば同様の形式でオペラを広範囲の聴衆に提供していたのが東京フィルの「オペラ・コンチェルタンテ」であった。あのシリーズでオペラの愉しみに目覚めた人は相当な数になったであろう。東京文化会館や新国立劇場のピットに入ることの多い東京フィルだからこそできた企画であった。1979年夏、少年時代の筆者が初めて舞台を観てオペラの素晴らしさに目覚めたのは、若杉弘氏が指揮する東京フィルが東京文化会館のピットに入った二期会『ローエングリン』の公演であった。英国留学時代の1994年秋にはロンドン公演で大野和士氏率いる東京フィルの雄姿に接することができた。オペラと管弦楽、双方に通じた東京フィルは日本では稀有な存在なのである。

等松春夫(とうまつ・はるお)

1962年米国バサデナ市生。防衛大学校国際関係学科教授。専攻は政治外交史・比較戦争史。オックスフォード大学博士(政治学・国際関係論)。主な著訳書に『日本帝国と委任統治』『なぜ国々は戦争をするのか』*A Gathering Darkness: The Coming of the War to Asia and the Pacific* など。1991~97年の留学中に英国音楽の魅力に目覚める。エルガー《エニグマ変奏曲》、《南国にて》、ホルスト《惑星》等のスコア解説を執筆。英国エルガー協会とホルスト協会の会員。

木々が芽吹きはじめる新緑の候、皆様におかれましては、
ますますご健勝のことと存じます。
今月は、マエストロと楽団員が奏でる、
色彩豊かな演奏を心ゆくまでお楽しみください。
引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長 兼 社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 三和 千之

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トップバン・フォームズ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止を余儀なくされております。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(45ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行(郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521(土日祝日を除く10時～18時)

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

令和4年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催します。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

3月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。
心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

佐々木 三春 ほか、匿名希望12名

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- ・商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- ・社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- ・東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- ・新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動が続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}・鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie	稲岡 宏司 Hiroschi Inaoka
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda		大田 淳志 Atsushi Ota
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	テューバ Tubas	古谷 寛 Hiroschi Furuya
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo		荻野 晋 Shin Ogino	
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下弘 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆ファオアシューラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2022(令和4)年5月18日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いいたします

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者のご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っています。

客席内は十分な換気を行っています。

時差入退場にご協力ください。



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

SEASON 2022